

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100204		
法人名	有限会社ゆたか		
事業所名	グループホームゆたかの郷		
所在地	宮崎市高岡町小山田65番地4		
自己評価作成日	令和2年12月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	令和3年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者一人ひとりの日々の生活状況や、ご病気・趣味・家族関係や人的環境や社会的な関わりなど情報をできるだけ、しっかりと収集し、職員間で共有できる。郷で穏やかに、ご利用者の尊厳を意識して、その人らしく生活して頂けるようにチームケアにて支援していく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

隣接している有料老人ホームを中心に協力体制がとられ、郵便局、小学校を挟んだ場所に位置している。
「ゆったりと穏やかな生活」「たくさんの笑顔」「かぞくの想いで」を理念とし、現在はコロナ禍により社会的活動は出来ていないが、地域の福祉拠点となっている。
ホーム内は明るい雰囲気の中でその人らしい生活が出来るよう職員が一丸となって取り組む姿がみられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・朝のミーティングでスタッフ全員で理念を輪唱し、理念を意識して、日々のケアの実践を行っている。	職員全員で話し合って作られた理念をミーティング時に唱和し理念の確認を行い実践につながる努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・施設行事や地域のサロンの参加など今年、2月頃より発生した新型コロナウイルスの影響にて実施が困難な状況となっている。	自治会に加入し地域の行事には入居者と職員が参加している。ホームの行事にも地域の方が参加しているが、現在コロナ禍予防のため自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進会議や地域のサロンの際に、地域の方と利用者が、直接交流を図り認知症の方々を理解して頂く様にしている。現状、新型コロナウイルスの影響にて実施が困難な状況となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議で頂いた意見・要望は謙虚に受け止め、スタッフと話し合い、できるだけ早急に反映、サービスの向上に繋げている。	運営推進会議はコロナ禍で実施できておらず、職員だけの会議になっており年1回の報告のみになっている。	委員会メンバーの意見を聞くためには、事前に文書を配布し意見をもらおうとさらにサービス向上が期待できる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・包括支援センターを窓口、後見人の相談をしたり、介護保険に関しては、市役所の担当者に連絡を取り、内容確認を行っている。	入居者の中に成年後見制度を利用している方がおり、弁護士の意見を聞く事もあり報告は行政に行っている。入居者の困り事の解決に努力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束廃止委員会で拘束しない介護を確認している。	法人全体で身体拘束委員会をつくり事例なども用いて勉強会を行っている。フォーマットで会議録を残している。言葉の虐待にも細心の注意を払い、気づいた時は職員同士で注意をしながら虐待防止に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	・利用者の気持ちや言葉を意識して、ご利用者の意向を尊重し虐待として見られたり、感じられたりするようなケアはしないようにスタッフ同士で意識し声を掛ける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・地域での研修や勉強会に参加できるように支援している。現在、新型コロナウイルスの影響にて研修などは中止となっていることが多い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約に関する説明は、契約書に沿って具体的に説明を行い、理解・納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会時に、お話を頂いた、ご意見や地域の交流会にスタッフが参加し意見を交換し頂いた要望や意見は運営に反映している。現状、新型コロナウイルスの影響にて面会は制限している。	コロナ禍でなかなか家族の直接意見を聞く機会が少ないがメール・画像を送信し現状を報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議・勉強会への参加を促し、又、個人面談を行い、意見や提案を行い、反映している。会議で出た意見・要望は、職員に周知しサービスの向上に繋げている。	職員会議は小学校の体育館で夜全員参加で実施している。個人面接をするなど管理者と意見の言いやすい環境を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・人事考課表の作成時に面談を行い、キャリアパス等を説明して職員のやる気を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・人事考課表を活用し、努力して改善できる点を把握し弱点をなくす様に育成を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・地域での勉強会や研修会に参加している。研修を通じて他施設と情報交換を実施している。現状、新型コロナウイルスの影響にて実施が困難な状況となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・時間を作り、話しを聞く機会を設けて信頼関係を築ける様に心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接から、ご家族の意向を傾聴し、記録を残し、ご家族にも大切と思うことは、その都度、話し合いを持ち記録を残しておく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・情報収取を十分に行い、スタッフ間の情報の共有を行い、何時でもご家族気兼ねなく話ができる環境を作る。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のその時々不安を解消し、落ち着いて施設での生活を継続して頂けるようにチームケアで対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・状況に応じて施設行事の参加や、外出支援を声掛けし、穏やかに生活して頂ける環境を整える。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・本人の会いたい方や、本人を知っている方(地域の方)等に声を掛け食事やお茶の参加や、地域サロンに参加している。現状、新型コロナウイルスの影響にて実施が困難な状況となっている。	以前は地域サロン、地域の行事等に参加していたが、現在は実施できていない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・孤立せずにスタッフが一人ひとりのご利用者さんの人的関係を把握し、間に入り、人的環境が円滑に進むように支援する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・ご本人の状況に応じてのサービスや医療機関との連携を図り、その人にとってより良い支援の助言を行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々のコミュニケーションやカンファレンスで意向を確認し、本人や家族を交えて話し合いの場を設ける。	意思表示できない方は表情や言葉により意向を汲み取り支援につなげている。特に家族からの意見を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・事前調査や、紹介機関からの情報を把握してサービス計画を作成し、モニタリングをしっかりと行い利用者の精神面や身体面の変化に合わせて、環境を整えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・職員間で情報の共有を行い、その都度、外出支援やドライブ等、個別の支援を行っている。又、気づきは、その都度、記録し反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・介護計画を職員間で見直し、勉強会で検討して、実践できる計画づくりをしている。	担当制を取り、日頃の情報を元にモニタリングをケアマネジャーと行い、出来る事・出来ないことに着目し介護計画の作成に役立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々、記録をしっかりと行い、又、申し送り簿を活用し、日々のミーティングで支援を検討し、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・健康状態やADLの低下や福祉用具の見直しなどサービスの多機能の支援も伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域の方々との交流の場を作り、地域の一人として支援し、サロンや行事に参加を行い、また地域の方も施設に招待し、交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状況により主治医を家族と共に検討し決めている。状況に応じて専門医に受診を行っている。	入居後のかかりつけ医は本人・家族と話し合い決めている。訪問診療医の協力も得られており、看護師も含め安心できる体制になっている。専門医受診が必要な場合も家族と相談し支援できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・看護師はスタッフ間の状況報告や気になることを迅速に判断し、主治医に連絡調整を図り迅速に対応する。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・医療機関の連携室と連絡を取り情報の把握を行い退院の支援を行う。退院に向けてカンファレンスの計画を迅速に行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・面会時やカンファレンスにおいて、ご家族や本人と話し合いを持ちながら、どのような人生の終焉を迎えたいか、また迎えさせたいかを傾聴し、スタッフの勉強会で情報の共有を行っている。	スタッフの終末期における勉強会は常に行い、ターミナルの体制は整えている。変化が生じた場合は、主治医と話し合いを行い意向の確認を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変時の判断は、日中は出勤者で看護師を中心に適宜な判断で迅速に対応するように指導している。また夜間は夜勤者が宿直者や管理者に連絡する。迅速な対応が行えるように指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・定期的避難訓練を実施している。地域との協力体制も整えている。	年2回の訓練は消防署も交え、地域住民も参加し実施している。地震・水害・火災の訓練も施設内で行いマニュアルも整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・接遇やプライバシー保護に留意し、本人のプライドを損なうことのないようにスタッフ間で、お互いに声掛けをおこないながら対応している。	本人の気持ちを大切に考え、傷つけないような声かけをし、その人らしい呼び名を家族と相談し決めている。 声かけには十分注意しお互いに注意できる雰囲気を作っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者から出た要望は話を傾聴し早急に受け入れる。職員の情報の共有を行い利用者に自己決定をできるように促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりの人として周囲に受け入れられ、尊重され、自分で自分の価値を日々、感じられるようケアをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・日々の生活の中で衣類の選択や、お化粧品などは、本人の意向を大切にして、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・本人の嫌いな献立は、代替え食を準備する。職員と配膳や、一緒に談笑しながら会食を行い、できる方には片付けを手伝ってもらっている。現在は新型コロナウイルスの影響にて職員は利用者と一緒に食事を食べていない。	有料老人ホームと共同の厨房にて調理し、運んでいる。配膳、テーブル拭き等出来ることは手伝ってもらっている。好き嫌いのある方には代替え食を用意している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の嗜好を大切にして、水分や補食を行っている。記録を活用し水分量の足りていない方には本人の代替品を提供する。又、食事形態も本人の状況に応じた支援を実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後は、必ず口腔ケアを、その方にあったケアの支援を行っている。お茶で嗽を促すこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各個人の排泄状況をトイレ等で、その都度、記録し職員間で情報を共有しチームケアで利用者の排泄の質の向上を認識して介護用品も検討している。(布製の物や、パッドの種類の中から適正に選択する等)	その度排泄チェックに記録して情報を共有し、排泄介助に役立てている。トイレは共同であるが、介護用品を検討し、質の向上を目指し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・繊維質や乳製品や水分の摂取を考慮する。又、体操や歩行訓練、腹部マッサージなど、その方に(一人、一人)あった支援を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・利用者にて週に3回の実施は当然であるが、排泄が上手くいかなかった時など対応している。又、入浴の時間もご利用者の状況に応じて支援を実施している。	本人に合った入浴時間を決め、週3回は利用できるようにしている。様々な入浴剤を使い心地よい入浴を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・できるだけ夜間に良眠して頂ける様に、日中の余暇対策を個人の嗜好に配慮して過ごして頂いている。又、眠くなるまでは、職員と一緒に過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬に関しては、慎重な対応を職員一人ひとりに認識を促している。又、状況により、看護師が医師【主治医】に連絡を行い、受診の指示や調整の指示を受け対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・できることは、一人ひとりに満足感や生活をしているという認識を持って頂ける様に支援を促している。押しつけではなく役に立っているという自信にもつながり生活にも張り合いや充実感を持って頂ける様に対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・その時、その都度の支援を職員間で連携を図り散歩やドライブ等を実施している。又、家族との外出や本人のご意向での、故郷訪問も実施している。施設行事やサロンの協力も頂いている。新型コロナウイルスの影響にて実施(外出・施設行事)は困難な状況となっている。	以前はドライブ、故郷訪問など行っていたが、コロナ禍によりすべて制限されているため現在は行っていない。面会はスクリーン越しで出来るよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お金を持たれている方は少ないが、持っていないと不安な方は、その都度、買い物や飲み物の自動販売機まで支援を行っている。又、施設で立て替えてほしい品々の買い物をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・何時でも、電話は掛けて頂いたり、職員が本人のご意向を、お伝えしている。手紙に関しては、目の前の郵便局に職員と同行して対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・常に、臭いが無く、明るい空間が保てる様に配慮している。時代感のある嫁入り筆笄をリビングに置きできるだけ落ち着いた雰囲気で生活して頂ける様に、配慮している。	皆が集うリビングは日光が良く入り、明るい空間の共有スペースである。季節の花を飾り楽しく一日過ごせるよう和やかな雰囲気を作っている。庭に面したベランダを改築し、茶話会やレクリエーションの場所として活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビングのソファや居室での利用者間での会話は、利用者一人ひとりの意向で対応して頂いている。リビングのソファやテーブルのレイアウトにも配慮を行い対応する。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人の気に入られていた品物は、身の回りに持ってきて頂いている。一人ひとりのご意向を把握して、一緒に配置や模様替えを行い対応する。	気に入った家具を持ち込み家に居るような環境で生活している。時には模様替えをし、気分転換を計っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・転倒や、自然災害のリスクを常に配慮し安全に生活して頂ける様に職員が認識して支援できるように環境(ハード面・ソフト面)を整える。事務所のボードを使ったり、申し送りや情報の共有を行い、自立支援を行っている。		